

奈良県文化振興大綱の平成29年度進捗状況について

(1) 奈良県文化振興大綱の概要

大綱の位置付け・期間

<大綱の位置付け>

- 「文化芸術振興基本法」及び「教育基本法」に基づき策定
- 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に規定されている「教育、学術、及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」のうち、「文化の振興に関する総合的な施策の大綱」として策定するもの

<期間>

- 平成29年度から 概ね5年間の文化振興施策の方向性を示し、5年目の平成33年度に方向性を検証、再検討

趣旨・方向性

- 日本の歴史、文化のはじまりの地であることから、歴史や文化振興を通じて郷土の誇りを醸成し、文化の力を地域や産業の発展に活かして「歴史と芸術が息づく心豊かな文化の都・奈良県」を目指す
- 2017年の国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭の文化振興の高まりを東京オリンピック・パラリンピック競技大会の年につないでいく
- 大綱は、奈良県の強みである「**歴史文化資源活用分野**」と「**芸術文化振興分野**」に力点を置いて、個性あふれる文化振興施策を進める

大綱を活用した文化振興施策の展開

<大綱の構成>

	①現状と課題	②文化振興施策の方向性（分類別）		③施策の展開（事業展開例）		④目標と指標
歴史文化資源活用分野	ア.歴史文化資源を活用して県が取り組んできたこれまでの施策、事業 イ.歴史文化資源に関する情報の集積について ウ.歴史文化資源に関する説明手法について エ.県立歴史文化資源活用関連施設の状況 オ.県立を除く歴史文化資源活用関連施設の状況 カ.課題分析のまとめ（留意点）	A.施策対象のデータベース化 B.補助金を通じた整備・活用の支援体系の再構築 C.情報発信強化 D.国際展開 E.人材育成 F.他の行政分野における歴史文化資源活用の観点への留意	【両分野】 L.地域の特徴を活かした広域的な文化振興の考え方 M.（仮称）奈良県国際芸術家村の整備 N.県内文化振興関連施設の役割と連携	A'.歴史文化資源データベースの構築・運用 B'.国・県・市町村指定文化財、その他各地域で大切にしたい歴史文化資源の保存・修理や活用を支援 C'.ACCU奈良による国際協力事業の支援 D'.世界遺産教室の実施 E'.文化芸術の担い手となる大学生等支援 F'.歴史を活用した施策推進の手引き作成	【両分野】 L'.（仮称）奈良県国際芸術家村を拠点とした県内の文化ゾーニングの検討 M'.（仮称）奈良県国際芸術家村の整備 N'.館相互の連携とあり方と果たすべき機能について検討	大綱に示す施策の実施にかかる、平成33年度における成果（行動）指標を策定 【目標】 ・成果目標 4項目 ・行動目標 3項目 【指標】 ・成果指標 8項目 ・行動指標 4項目
芸術文化振興分野	キ.芸術文化に関する県民意識 ク.芸術文化振興に関して県が取り組んでいる主な施策、事業 ケ.県立芸術文化関連施設 コ.市町村立芸術文化関連施設 サ.課題分析のまとめ（留意点）	G.県民意識の醸成 H.伝統的な文化の継承・発展・保存 I.情報発信強化 J.人材育成 K.補助金等を通じた芸術文化活動支援		G'.「ムジークフェストなら」「大芸術祭の開催」 H'.子ども向けの体験事業の展開 I'.インターネット等を活用したブランドイメージ定着 J'.「県立ジュニアオーケストラ」等の活動支援 K'.補助金等による活動支援		

<文化振興施策の推進に向けて(PDCAサイクルの実施)>

事業実施

大綱で示す文化振興施策関連事業を各担当課において実施

成果の把握

各事業ごとに、目標に対する成果（進捗）を把握

評価・検証

他地域との比較や傾向分析を通じ、評価を実施し、課題を整理

次年度への反映

評価をもとに、重点的に取り組むべき施策を検討・実践

【大綱に定める指標を活用した評価・検証】⇒**評価結果について、総合教育会議で報告**

各成果（行動）目標について、成果（行動）指標の**現状値と目標値との差が拡大しているもの（達成しているものを除く）を抽出**
⇒**目標達成に向けた課題や今後の方向性**を整理（次頁以降）

(2) 指標から見た奈良県文化振興大綱の進捗状況

成果(行動)目標	成果(行動)指標	指標				目標値 平成33年	達成状況	
		平成28年		平成29年	増減(対前年)			
【成果目標1】 県民が、歴史を通して地域の文化への理解を深め、奈良県や身近な地域への愛着を感じている状態の実現	①	【成果指標1-①】 県民アンケートにおいて、将来的に奈良県に「ずっと住みたい」または「一度は県外に出て、奈良県に戻って住みたい」と答えた理由として、	44.4%		42.0%	▲2.4ポイント	50.0%	
		【成果指標1-②】 「世界遺産や文化財などが多く、歴史的な雰囲気を感じるから」を挙げる県民の割合を40%に高めます。	35.9%		34.8%	▲1.1ポイント	40.0%	
【成果目標2】 県民が、地域の文化的環境に対して満足している状態の実現	②	【成果指標2-①】 県民アンケートにおける、県民の身近な生活に関する項目の満足度について、	3.58点		3.55点	▲0.03点	3.5点以上維持	
		【成果指標2-②】 「自分が住んでいる地域に活気があり、魅力のある地域になっていること」の平均点数(5段階評価5点満点)について3.0点に高めます。	2.69点		2.73点	0.04点	3.00点	
【成果目標3】 県民が、文化芸術の鑑賞活動や創作活動等を盛んに行っている状態の実現	③	【成果指標3】 県民アンケートにおける、この1年間に文化活動又は文化鑑賞を行った県民の割合を55%に高めます。	49.0%		49.6%	0.6ポイント	55.0%	
【成果目標4】 奈良県の歴史や芸術の魅力をもとめ、訪問や周遊、観光が盛んに行われている状態の実現	④	【成果指標4-①】 県民アンケートにおいて、親せきや友人、知人等をもてなすため、観光やレクリエーションを目的に奈良県各地域を訪問する場合の訪問目的として、	72.6%		68.5%	▲4.1ポイント	70.0%以上維持	
		【成果指標4-②】 「伝統行事・イベント・祭り」を挙げる割合については30%に高めます。	26.8%		24.7%	▲2.1ポイント	30.0%	
		【成果指標4-③】 「美術鑑賞・展覧会等」と「演劇、コンサート鑑賞」を挙げる割合の合計を15%に高めます。	11.1%		12.3%	1.2ポイント	15.0%	
【行動目標1】 奈良県の歴史や文化の情報が盛んに利活用されている状態の実現	⑤	【行動指標1】 県が運営している歴史文化資源活用に関するHP「奈良県文化資源データベースHP」アクセス件数を年間30万アクセス以上に高めます。	—		66,348 アクセス	66,348 アクセス	300,000 アクセス以上	
【行動目標2】 歴史文化資源の説明について、わかりやすく親しみやすい説明手法が確立されている状態の実現	⑥	【行動指標2】 説明力の高い歴史文化資源の説明文が、「奈良県歴史文化資源データベース」に200件以上蓄積されている状態を実現します。	96件		232件	136件	200件以上	
【行動目標3】 芸術文化イベントに県民が積極的に参加することができる状態の実現	⑦	【行動指標3-①】 奈良県大芸術祭のイベント数について、800催事以上を維持します。	760催事		808催事	48催事	800催事以上を維持	
		【行動指標3-②】 平成33年度までに、県民アンケートにおけるミュージックフェストならの周知度を55%以上に高めます。	32.0%		33.1%	1.1ポイント	55%以上	

< 進捗状況の傾向 (主な特徴) >

- ・ 成果行動目標の1・2指標のうち、「目標達成」又は「よくなっている」指標が、**8指標** (全指標の**2/3**)。
- ・ 「【成果目標2】 県民が、地域の文化的環境に対して満足している状態の実現」や、「【成果目標3】 県民が、文化芸術の鑑賞活動や創作活動等を盛んに行っている状態の実現」については、前年度と比較し、**ほぼすべての項目において「よく」なっており、目標達成に向け、順調に推移。**
- ・ 「【成果目標1】 県民が、歴史を通して地域の文化への理解を深め、奈良県や身近な地域への愛着を感じている状態の実現」や「【成果目標4】 奈良県の歴史や芸術の魅力をもとめ、訪問や周遊、観光が盛んに行われている状態の実現」については、**前年度より悪化している項目が多い。**

< 分野別の状況について (課題) >

- 〔歴史文化資源活用分野〕
 - 「奈良県や身近な地域に愛着を感じる」県民の割合や、「歴史や文化財に触れる(寺社、世界遺産など)」を訪問目的とする割合が低下しており、**郷土愛の醸成や情報発信の強化**が課題。これを解消するため、**歴史文化資源に触れ、学び、理解する機会の創出**など、**交流・人材育成**に向けたさらなる取り組みが必要。(①、④)
- 〔芸術文化振興分野〕
 - 「伝統行事・イベント・祭り」を訪問目的とする割合が低下しており、**県民意識の醸成や情報発信力強化**が課題。また、前年度から改善されているものの、**地域・世代間で差が生じていること**から、これを**解消するための取り組み**が必要。(④)
 - 上記に加え、芸術文化活動の活性化も課題であり、伝統行事等へ参加する**芸術文化活動を行う者への支援**や伝統的文化の後継者養成も含めた**人材育成**に向けた取り組みが必要。(③、④)

(3) 目標達成に向けた課題と今後の方向性

①県民が、歴史を通じて地域の文化への理解を深め、奈良県や身近な地域への愛着を感じている状態の実現

～「奈良県や身近な地域に愛着を感じていただき」または「世界遺産や文化財が多く、歴史的な雰囲気を感じていただき」、将来的に奈良県に「ずっと住みたい」または「一度は県外に出て、奈良県に戻って住みたい」と思っていたくためには～

○すでに実施している取り組み

項目 (事業名)	分類	成果と課題 (平成29年度)	目標達成に向けた今後の方向性 (あるべき姿)	実現に向け懸案となる 事項
小中学校での郷土学習の推進 高等学校における郷土の伝統、文化、自然等に関する学習充実事業の推進	<歴史文化資源> ・人材育成	【成果】 ・郷土学習の指導事例集の作成・小中学校への配布 ・全ての県立高校において郷土学習を実施。指導者研修及び発表会の実施。 【課題】 ・郷土学習の実践のためのノウハウの共有	・郷土学習の指導事例集の追加更新 ・小中学校において郷土学習の推進研究を行うための指定校の選定及び指定校による研究発表会の実施 <参考> 指定校として3箇所の小学校を指定し、年度末に開催する学力向上フォーラムにおいて成果発表を予定(平成30年度)	・郷土学習に対する生徒の興味・関心を引くための内容のブラッシュアップ ・郷土学習の実践のためのノウハウをより多くの指導者に広めるための効果的な手法
記紀万葉プロジェクトの推進	<歴史文化資源> ・地域交流 ・情報発信強化	【成果】 ・記紀万葉への関心を醸成するシンポジウム、講演会、朗唱大会、かるた大会、パネル展等の開催 ・ホームページと連動したイベント(「記紀万葉」れきしぬりえコンテスト、古都恋都ぐるめ)の実施 【課題】 ・若年層への浸透	・日本書紀1300年を迎える2020年の集大成に向け、古代にまつわる歴史素材を活用し、歴史を楽しむイベントを展開 ・歴史を楽しむイベント等を取りまとめた情報発信するとともに、「なら記紀・万葉ホームページ」のコンテンツ拡充を実施	・若年層が「記紀万葉」に関心をもち、参加を促進させるための効果的な手法
歴史文化資源データベースの活用	<歴史文化資源> ・施策対象のデータベース化 ・補助金を通じた整備・活用の支援 ・情報発信強化	【成果】 ・230件の歴史文化資源の情報をHPで公開 ・必要な保存、修理、活用の取組を支援 【課題】 ・情報が古代に偏っている	・明治期、江戸時代など、近世・近代のコンテンツを拡充 ・発掘調査や建造物の修理状況などの情報発信 ・より多くの人々に興味を持っていただくための分かりやすい情報発信	・市町村と協働し、より多くの歴史文化資源の情報を集めるための効果的な手法 ・地域で大切にしたい歴史文化資源の更なる発掘 ・歴史文化資源を分かりやすく正確に説明できる力の向上

○新たな取り組み

項目	分類	取り組み内容	目標達成に向けた方向性 (あるべき姿)	実現に向け懸案となる 事項
県内文化資源の県外への情報発信を強化	<歴史文化資源> ・情報発信強化	・古代歴史文化の調査・研究に関心の高い14県でこれまでの研究成果を基礎に連携して「古墳時代の玉類」をテーマに調査研究を進め、その成果をH30に江戸博、九博で展示 ・鳥根県と共同して「出雲と大和」を主題とした展覧会を2020年度に東京で開催	・他府県と連携した調査研究を進め、成果を発表することにより、大きな古代史の流れの解明に取り組み、歴史文化の魅力を全国に発信する	・他府県との連携をより効果的に進めるための研究テーマの設定 ・活用実績、ノウハウの蓄積と展開

④奈良県の歴史や芸術の魅力を動機として、訪問や周遊、観光が盛んに行われている状態の実現

～親せきや友人、知人等をもてなすため、観光やレクリエーションを目的に奈良県各地域を訪問する場合の訪問目的として、「歴史や文化財に触れる（寺社、世界遺産など）」、「伝統行事・イベント・祭り」を挙げる割合を高めるには～

○すでに実施している取り組み

※ △・▼は、前年度（H28年度）と比較した増減数

項目 (事業名)	分類	成果と課題 (平成29年度)	目標達成に向けた今後の方向性 (あるべき姿)	実現に向け懸案となる 事項
「ムジークフェストなら」の開催	<芸術文化> ・県民意識の醸成 ・情報発信力の強化 ・人材育成	【成果】 ・来場者数 約12.4万人 (△1.2) ・会場数 137会場 (▼26) ・公演数 251公演 (▼49) 【課題】 ・幅広い層が楽しめる企画 ・県全体での盛り上げの創出	・音楽好きから初心者まで、幅広い層が楽しめる公演を企画 ・0歳からのコンサートやアウトリーチなど、若年層から音楽に触れる機会を創出 ・中南部東部地域での公演の充実、認知度の向上	・若年層が「ムジークフェストなら」に関心を持ち、参加を促進させるための効果的な手法 ・中南部東部地域での積極的な参加を促進させるための効果的な手法
「奈良県大芸術祭・奈良県障害者大芸術祭」の開催	<芸術文化> ・県民意識の醸成 ・伝統的な文化の継承・発展・保全 ・情報発信力の強化 ・人材育成	【成果】 ・イベント数 808催事 (△48) ・来場者数 約138万人 (▼72) 【課題】 ・更なる若年層の参加拡大 ・国文祭・障文祭との同時開催により高まった文化を楽しむ機運の維持	・障害のあるなしに関わらず誰もが参加できるイベントの開催 ・大人から子供まで幅広い層の参加 ・奈良の持つ歴史文化資源を再認識でき、未来への継承につながるイベントの開催	・多くの若年層が芸術文化に関心を持ち、イベントへの参加につなげる手法 ・歴史文化資源の魅力の発信、継承につながる効果的な手法

○新たな取り組み

項目	分類	取り組み内容	目標達成に向けた方向性 (あるべき姿)	実現に向け懸案となる 事項
奈良の仏像海外展示事業	<歴史文化資源> ・情報発信強化 ・国際展開	「奈良の仏像海外展示」を欧州2箇所で実施 ・2019年1月～3月 ギメ東洋美術館（フランス） ・2019年10月～11月 大英博物館（英国）	・日本のはじまりの地である奈良で、大切に守り育てられてきた仏像を欧州で展示することにより、本県の魅力を世界に発信し、海外における「奈良」の知名度を向上させ、海外からの誘客を促進	・開催館及び出陳社寺との連携 ・奈良の歴史・文化を含めた、外国人への訴求力のある説明 ・集客のための国内外での効果的な広報
(仮称) 奈良県国際芸術家村整備事業	<歴史文化資源> <芸術文化> ・人材育成 ・情報発信強化 ・国際展開	・歴史文化資源活用の先駆的拠点である(仮称)奈良県国際芸術家村の整備を推進。(2020年度完成予定)	・歴史文化資源活用の先駆的拠点を整備 ・文化財修復を中核に、奈良県の強みである歴史文化資源を最大限活用し、来訪者と文化芸術の担い手(文化財修復技術者、芸術家、工芸家等)が「交流」「学びあう」プラットフォームを形成	・子ども、若者、地域住民、観光客等幅広いターゲットに楽しみながら参加、体験してもらうプログラムづくり ・芸術系大学生をはじめとする若手の担い手が交流、学びあう仕組みづくり